

# THE NMUN KOBE TIMES



Kobe City University of Foreign Studies

秋の到来とともに各国代表役の学生も  
自信と意欲を深める



神戸での開催を目前に控える NMUN の参加予定者は、ポジションペーパーを完成させ、それぞれが担当する国の立ち位置をより明確なものにした。彼らはオーストラリア、ニュージーランド、ガーナ、セルビア、ソマリア、そしてウガンダの六カ国を担当する。2016年10月15日に本学で行われた3回目の模擬国連演習授業では、36人の学生が、この3ヶ月間に培った知識や方針のもと、それぞれの国を代表することにむけての自信と情熱をあらわにした。

この日の講義では、初めに野村ニイナさんがスピーチの方法について講義を行った。野村さんは本学英米学科2年生で、ソマリア(国連高等難民弁務官事務所: UNHCR)を担当する。NMUNでは、議題を設定する際、公式のディベートの際、そして投票の際に各国代表がスピーチを行う。

野村さんは、スピーチには四つの段階があると説明した。はじめに、代表はスピーチの目的を説明する。スピーチの内容がどう会議に関係があるのか説明するのだ。第二に国の政策を紹介する。その次に問題の背景や証拠などを提示し、そして最後にスピーチを端的に要約する。代表はそれぞれの国の観点から話すだけでなく、グローバルな観点からも説明するようにすることが大切である。また、発言する際には規定のプロトコルに従うことも必要だ。「議長閣下、ならびに栄誉ある代表の方々」と語り始め、最後に「ありがとうございました」と締めくくるのである。

野村さんはさらに人前での話し方について、スピーカーは自信を持ち、洗練された姿勢を見せるべきである、と説明した。また、聴衆の注意を引くためには彼らの目を見つめ、声のトーンや速さを変えたり、ジェスチャーを使ったりすると効果的である。

(次項に続く)



野村さんはさらに、人前での話す場合、スピーカーは自信を持って洗練された姿勢を見せるべきである、と説明した。聴衆の注意を引くためにはまた、彼らの目を見つめ、声の調子や速さを変えたり、ジェスチャーを使ったりすると効果的であるという。野村さんは「皆さんのアイデアを披露するチャンスをつかんでください。そのための行動を起こさなければ、機関内で変化は何も望めません」と述べた。野村さんの講義の後、次の講義まで20分にわたり参加者全員でスピーチの練習を行った。

ウガンダ代表(国連経済社会理事会:ECOSOC)を務める、本学国際学部3年の早川航洋は、決議草案の作成方法について語った。決議草案は何かしら解決策が必要である問題を提示する前文(preambular clauses)と、前文で述べられた問題に対する具体的な解決策を提示する主文(operative clause)の二つで構成される。早川さんによると、良い決議草案というものは一般的に四つの要素を含んでいるという。一つが前文における国際的合意と過去の決議案についての言及。二つ目が5W1H(だれが・いつ・どこで・なにを・なぜ・どのように)を使った事実に基づいて状況や出来事の説明が行なわれているか、主文においてその他の論理的な展開が行なわれていること。三つ目が前文と主文が互いに結びついていること。最後に、文頭において「Recalling」や「Urges」といった特別な分詞(前文)や現在時制の動詞(主文)を含有することである。

ワーキングペーパー(WP)の変更が自由である一方、決議草案の変更には制限がある。“operative clause”は決議案への同意を強めるための「修正」と呼ばれる過程でのみ変更が可能であり、そのためには代表は賛同国(決議草案筆者)や調印国(決議草案の支持者)の署名が必要なのである。全員がその変更賛成したとき、その修正案は「友好的修正(friendly amendment)」と呼ばれ、変更が認められる。しかし、それらの国のうち一つでも反対した場合、それは「非友好的修正(unfriendly amendment)」と呼ばれ、会議終了後に採決が取られる。3日目の終わりや4日目に行われる修正の過程において、自国により都合がよいように決議草案を変えようとしている他国代表によって自分の政策が取り除かれないように、今なにが起こっているのか、代表は細心の注意を払わなければならない。早川さんは自分たちのアイデアに賛成してくれるように他国の代表を説得すること、また自分たちの政策をボツにしないために、他の決議草案に取り込むよう示唆した。



会議は次の四つの段階を経て決議草案の採決に進む。一つが、全代表がスピーチを終え、ディスカッションを終結していること。二つ目が、非友好的修正案の審議(非友好的修正案に賛成した代表と反対した代表がその理由についてスピーチを行った後、プラカード投票で決定する)、三つ目が、分割採決への動議が出された場合は、その動議を採決するかどうかの投票を行い、可決された場合、分割採決を可決するか、否決するか投票が行う。四つ目が、採決方法の検討である。

採決方法には、プラカード投票と点呼投票、全会一致による採決の三つがある。プラカード投票とはプラカードを挙げて示すことによって投票するものである。点呼投票は国名が呼ばれたとき、「賛成」か「反対」、「棄権」と答えることで意思を示す。全会一致は合意によって決議草案が可決されるものである。国連で可決される決議案の約80パーセントは、全会一致によるものである。

模擬投票を練習した後、代表たちは四つの機関別にグループに分かれ、それぞれの担当国の政策を議論しあった。そこでは全員に見えるようにホワイトボードを使い、PPから裏付けとなる理由を抜き出しながら、各議題に沿ったアイデアを出し合った。メンターや機関別グループのリーダーが、それらのアイデアをどのようにWPポリシーに発展させていくかについて助言を行った。

**国連総会**では、代表者の立場は国ごとに異なった。例えば、ソマリアの代表たちはテロとの闘いを強調した。彼らは特に、核兵器のもととなる核物質の不法取引監視の重要性を主張した。ニュージーランドの代表は武器貿易条約(Arms Trade Treaty: ATT)を支持し、UNは非国家組織への武器の不法流入を見逃してはいけないとし、国連通常平気登録制度にSALW(携帯兵器と小型武器)を加えられるべきだと指摘した。

**国際連合経済社会理事会(ECOSOC)**では、代表たちは互いの国の政策の中で矛盾点や足りない情報がないかを探し合った。例えば、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊による教員研修プログラムで教育における国内問題を解決するという、ソマリアの代表の提案については、国際的な視点が欠けていることが指摘された。

同理事会副議会を務めるこのグループのメンターである植田奈菜子さんは代表たちにもう一つの議題である防災(DRR、以下『豆知識』参照)について各地域のプラットフォームを確認し、最新の展開を把握しておくことを推奨した。

**国連安全保障理事会**では、日本の代表者は、2015年8月に開催された女性のための国際会議であるWAW!東京2015での討論を引用し、地域女性のエンパワーメントの必要性を強調した。北朝鮮の状況については、ニュージーランドの代表は大量破壊兵器の拡散を規制、阻止する国際体制の強化の重要性を主張した。

**UNHCR**では、ウガンダ、ガーナそしてニュージーランドの代表たちが子供難民のための教育プログラムの導入を呼びかけた一方、オーストラリアの代表は精神的損害を受けた子供難民のために精神治療プログラムの設立を提案した。セルビアの代表は欧州連合(EU)による財政支援を基にした住居建築プロジェクトを提案した。使われていない土地を難民に保護施設を提供するため、活用するのである。それは同時に難民に仕事を与えることもできるだろうと彼女は付け加えた。

すべての代表たちがこの日、PPの最終草案を提出した。代表たちは、10月22日の次の授業に向けて、議題設定のスピーチと、一つの議題に対し二つのWPアイデアを用意する宿題を与えられた。



を支持

#### ～豆知識～

DRRは、災害の要因を分析し減少させる体系的な活動を通して、災害の危険を減少する基本理念と実行のことを指す。この目標を果たすために国連国際防災戦略事務局(UNISDR)が2002年に設立された。これは1994年に横浜で開催された国連防災世界会議において採択された「より安全な世界に向けての横浜戦略」に基づくものである。

6400人以上がなくなった1995年1月17日の阪神淡路大震災以来、兵庫県と神戸市はDRRにおける研究、教育そして協力の最前線にある。国際復興支援プラットフォーム(IRP)は、2005年に神戸市で開かれた第2回国連防災会議の場で採択された「行動のための兵庫フレームワーク」の実践をサポートするために神戸市で立ち上げられた。2007年には、UNISDRが神戸市に事務所を開設した。11月23日には、NMUNの開会式典のひとつとして、防災国連フォーラムが開かれる。

NMUN の代表の中には海外からの留学生もいる。彼らは何故本学へ来て、NMUN に参加するのかについて聞いた。

### ドイツからの学生たち

アンナ・ディーケリングさん、ノラ・ハルスターンバークさん、ケル・シュワルツさんの三人は、ドイツのデュースブルグエッセン大学現代東アジア学部からの交換留学生だ。彼らは今学期から本学で学ぶ。さらに今大会では、日本代表リーダーとして参加する。ディーケリングさんは彼女の故郷に日本人地区があったことから、日本への関心が沸いたという。シュワルツさんも2010年から日本語を学習し始め、その運用技術の向上を図りたいと留学を決めたという。三人は本学の日本語養成プログラムに参加している上に、日本についてより深く学ぶ機会としてNMUNに参加する。日本代表として国際社会に参入する貴重な機会になるだろう。ハルスターンバークさんは、英語や独語ではポジション・ペーパーを埋めるための情報を集めきれないと分かり、調査が難航しているという。彼らにとって、詳しくない分野の政策や意見を述べるのは難しいことなのだ。会議に参加する大勢の日本人学生の前で発表することにも難しさを感じている。しかし、彼らは日本の政策について学習できることを楽しみにしていて、様々な文化的背景を持つ人々とディベートし、交渉することを待ち望んでいる。(船橋ゆずり)



左から、ケル、ノラ、アンナ

### 中国からの学生

ダイ・ダンヤンさんは本学大学院の一年生で、英語養成プログラム(通訳翻訳領域)で学んでいる。彼女は浙江省紹興市出身で、中国の大学で日本語を二年間勉強した。日本語力の向上と日本の社会や文化に触れることが彼女の夢で、大学三年生のときに関西国際大学の英語教育学部へ転学した。卒業後、本学大学院に入学し英語と日本語の翻訳を専攻している。



昨年彼女が偶然 NMUN 経験者と同じ授業を受けたとき、彼らの英語力に圧倒されたという。これが動機となり、今大会への参加を決意した。この大会を通して、英語力だけでなく、困難を乗り越える自己管理能力も身につけたいと彼女は望んでいる。「NMUN に向けて、想像していたよりもっと多くの時間をかけないといけないと分かりました。」と彼女は言っている。ダンヤンさんはニュージーランド代表として安全保障理事会に参加する。「一週間に一回以上はパートナーと情報交換をしています。前から聞いていたのですが、日本人は協力するのが本当に上手だと思いました」と彼女は言っている。(森田帆風)

### 1巻3号を担当した記者

加茂 隆大	阿部 弘果	森田 帆風	高野 七海	大石 紗英
白石 汐音	山崎 智美	船橋 ゆずり	塩谷 広子	東前 彩美

### 1巻3号の翻訳担当者

鈴木 麻美	西岡 和馬	時末 光	北岡 直樹	(ICC 翻訳クラス)
大石 紗英	(ジャーナリスト)			